

1 伊集

【いじゅ】

村の最南部に位置し、西原町と接している。地名は集落後方の杣山にイジユの木が繁っていたことから名付けられたという言い伝えと、魚がたくさん集まったことにちなんでいるという説もあって定説ではない。古くから民俗芸能が発達し、中でも打花鼓(たふあーく)と伊集早作田は有名。また、伊集のガマク小や真加戸樽、比嘉ナビーなどの美人の史実や伝説も広く知られている。

2 和宇慶

【わうけ】

村の南部に位置し、伊集に隣接しているため、昔からンジュ・ヲーギと併称されてきた。和宇慶はもともと民俗芸能の盛んなところで、戦前は、和宇慶独自の組踊「護佐丸」を旧一五夜に上演していた。特に「稲しり節」は有名で、ししまい巻棒にも誇るべきものがある。昭和58年、亀甲墓に壁画が発見されたことは、沖縄の古い文化を解明する上から注目すべきものとして話題を呼んだ。

3 南浜

【みなみはま】

南浜は、廃藩置県後にできた集落で昭和12年に和宇慶より分離独立した。太平洋戦争時に西原飛行場建設のため日本軍、米軍に住居地を接收され、旧集落に戻れないまま今に至る。70世帯200名余の村内で最も高齢化が進んだ地域となっている。今後MICEに関連して南浜の発展が期待される。正月のハチウクシーの中でアサトガーをおがむ伝統が守られている。

4 北浜

【きたはま】

廃藩置県後、土地整理までの間に、首里から一部は津覇に、主として和宇慶の北浜原に移住して形成された屋取で、昭和12年に南浜とともに和宇慶から分離独立した。村内では、最初に土地改良事業が実施されている。昭和57年からはビニールハウスが導入され、トマトなどの野菜類が栽培されるようになり現在にいたっている。中城でも有数の農業地帯である。

5 津覇

【つは】

村の東南部に位置し、東は中城湾に面する。地形は斜面部と平坦部からなるが、集落は国道の東側の平坦部に密集している。平坦部の耕作地は肥沃でサトウキビなどの生産性が高く、最近では花卉園芸作物も栽培されている。戦前から民俗芸能の盛んな所で、特に獅子舞は有名。国道の西側にそびえる上津覇の山には「上津覇遺跡」があり、炭化米、土器片などが発見されている。

6 奥間

【おくま】

国道西側の集落内には学校給食共同調理場がある。津覇との境界線、集落の南西部には琉球大学、那覇方面へ通じる村道があり、県道的役割を果たしている。斜面部の地形は必ずしも農耕地として最適とはいえないが、盆地状の地形を活かして、果樹及び野菜の生産が行われている。

7 浜

【はま】

村の東部、奥間の東約500メートルに位置し、東は中城湾に面する。地形は南浜・北浜と共に海岸低地地域だけで形成され、集落は密集している。もと、奥間に所属していたが、沖縄戦直後の昭和21年に分離独立して一自治会を新設した。本村唯一の漁港があり、字民の多くが漁業に従事している。サトウキビの生産も活発。

8 安里

【あさと】

海岸近くに吉の浦公園があり、平坦部の一角にはビジュル信仰の対象となっている安里のテラ(安里権現)がある。その周辺一帯は、土地改良事業により農地が整備されているが、安里のテラの聖域はそのまま保持されている。殿地山に殿があり、その東側の安里クボーと称する丘に拝所がある。集落の西側の丘陵地にグスク時代の遺跡があり、サトウキビの生産も行われている。

9 当間

【とうま】

村の政治・行政・教育・文化の中心であり、国道に沿って村役場、中城郵便局、中城中学校、JAなどがある。海岸近くには村地区公園運動場、吉の浦会館などの施設が並び、ホームルの食品缶詰工場も建設されている。代表的な伝統行事に綱引があり、特に7年に1度行われる大綱引は注目される。



とよむ
21自治会



あふれる自然と活力ある
コミュニティー

中城村には21の自治会があり、中城城跡をはじめ歴史的な文化財が数多く残る、活気溢れる村です。



10 屋 宜

【やぎ】

屋宜海岸を屋宜の浦といい、古くは吉の浦と称した。地形は斜面部と平坦部からなり、村落は国道の西側にも分布するが、主として平坦部に立地し、海岸近くまで及んでいる。なお近世につくられたと伝えられるスガチミチ(潮垣道)より東側は、それまで海だったとされている。集落発祥の地とされる玉城之殿は国道西側にあり、住民の信仰の対象である。ヤージヌンドゥルチも文化のかがりが高い。

11 添 石

【そえし】

村老人福祉センターの近くには「レンコン井戸」があり、昔レンコン栽培が行われていた時に使用されたとされる。中城村の慰霊塔も近くに建立されている。中城城跡近くにあるシーシガンワの山に集落跡の遺跡があり、土器、青磁などが発見されている。平成17年、に「添石の旗頭」が復活し、毎年旧7月17日のハタスガシのウガンに、区内4カ所の拝所で旗頭を奉納している。

12 伊舎堂

【いしゃどう】

添石に隣接し、昔からシーシ、イシャドウと併称された。かつての古い集落は、久場の台城付近の伊舎山に立地していたというが、人口の増加と農業の進捗につれて現在の肥沃な平坦地に移動したと推定されている。三本ガジマルは有名であり、琉歌の「思ゆらば里前島とまひていまれ 島や中城 花の伊舎堂」も県民に広く知られている。

13 泊

【とまり】

大正期までは海岸に泊港があって、船舶が止まっていた。西方には中城城跡があるほか、中城按司の末裔と伝えられる根所の泊大屋もあって、各地から参拝者が訪れる。伝統芸能の稲摺節は有名。また、樹齢400年の泊大クワディサーは、沖縄県の名木百選に登録されている。

14 久 場

【くば】

村の北端に位置し、村で最も高い台城からのぞむ久場の地名は、ヤシ科ビロウ(クバ)にちなむとされている。戦前の集落は、現公民館の北側にあったが米軍に接収されたため、区民は数年間、伊舎堂、添石地区に間借りして生活し、その後一部泊地番を含む地域に新集落を建設し、移動した。接収から36年目に返還され、土地区画整理事業竣工後は、人口増加にある。

15 登 又

【のぼりまた】

明治の初期、首里・北谷などから移住した人たちがステバナ(袖花)、ヤラグワー(屋良小)という屋取を構成し、添石・屋宜・伊舎堂・久場に所属していたが、昭和6年に行政区として分離独立。昭和29年、北中城村大城との境界に中城ダムが建設されて、一部水田も開かれていた。自治会を中心に、正月の門松づくりや敬老会、昆虫観察会や夏祭りなどの行事が活発に行われている。

16 新 垣

【あらかき】

12~13世紀頃に作られたといわれる新垣グスク跡には集落跡があり、古い遺物も出土している。平成27年に国指定史跡になった新垣グスクの北側にターチャーインと呼ばれる二つの岩山があるが、これが1853年にペリー提督の探検隊が旗を立てた「旗立岩」である。新垣の東部には中城城跡に通じるハンタ道(端道)という昔からの道がある。

17 北上原

【きたうえばる】

廃藩置県後に、首里や北谷などから移住した人々によってつくられた屋取集落で、新垣・当間・安里・奥間に所属していたが、明治36年以降分離独立して行政区になった。沖縄県消防学校が所在している。標高161メートルの高い丘があり、そこからは太平洋が一望できる。集落は南北に走る県道29号線沿いや榕原を中心に各地に点在している。

18 南上原

【みなみうえばる】

イージャガーを源流とする普天間川が北流している。東側のがけに沿って北は北上原、新垣を経て中城城跡、西は西原、首里方面へ通じるハンタミチがあった。糸蒲は沖縄における田芋の発祥地といわれている。地内に琉球大学が移転したことにより1980年ころから住宅やアパートが増加し、人口も激増して、現在中城村の中で、最も人口が多い地域になっている。

19 県営中城団地

【けんえいなかぐすくだんち】

平成4年4月に誕生した自治会。県道29号線の南上原から国道329号の奥間を結ぶ道の途中に位置し、眼下には美しい中城湾が広がっている。自治会では8月の夏祭り、1月の餅つき大会のほか、子どもを中心として隔月1回、パスツアーや宿泊研修などを行っている。

20 サンヒルズタウン

【さんひるずたうん】

サンヒルズタウンは登又と新垣の地番が混在した閑静な新興住宅地として平成5年に誕生した。平成6年7月の自治会発足以来、夏祭りのイベント開催や年間行事多彩な子供会活動、及び8班から成る闊達な自治会組織の活動を通して区民交流の促進を行い、地域ぐるみで花いっぱい清潔で住み良い街づくりに努めている。

21 県営中城第二団地

【けんえいなかぐすくだいにだんち】

伊舎堂と泊の集落境にある若緑色のドーム屋根が特徴的な7階建て56世帯の小さな団地。平成11年4月に行政区となり、自治会、子ども会が一体で毎月の清掃、正月のムーチー作り、ジャガイモ堀りなど、親子で楽しく活動に取り組んでいる。グラウンドゴルフやBBQ大会、敬老会の親睦行事のほか消防避難訓練など防災にも力を入れている。

中城村の昔話 田芋「ターナム」のはじまり

むかし、なかくまくむらの、いとがまといるところに、いとがま寺、というお寺がありました。おころには、きんむら生まれのおぼろさんがすんでいました。

ある田のことです。おぼろさんが、おきうらの、あせみさまを、おこいと、きらきらとひかる、ふしぎな、はつばを、みつけました。

ちかづいてみると、そのはつばは、いままでみたことのない、めずらしいかたちをしていました。どうやらはつばが、あせつゆをうけ、たいやうのひかりをまびて、かがやいているのでした。

「おまがやにならうな、りっばなはつばじまのー。どれどれ、あつらじま」と

おぼろさんが、ひっこめいてみると、ねもとからはみたことのない、おやいも、こいも、がぞくぞくでてきました。

「これはめずらしいいもじまのー…たべられるものか？」

おぼろさんは、いもをもちかえり、お寺のいけにうえてみることにしました。するといもは、どんせいちゅうし、ねんごには、いけいちめんに、ひろがってしまいました。

りっばに、おぼろさんは、はのねもとをほって、みると、ななとたくさのいもが、でていました。さっそく、おなべに水を、はって、ぐらぐら、ゆでて、たべてみると、あまい、おいしい、いもでした。

このはなしを、きいた、むらの、人びとも、おぼろさんから、いもを、わけてもらい、田んぼに、うえました。大きく、おぼろさん、ほりおこし、たべてみると…

「これはうまいー、いままで、たべたことのない、おいしいものだ」

「おぼろさん、このなおいしい、いもを、わけてくれて、ありがとー」

むらの人たちは、あまい、おいしい、いもにおどろき、いもを、わけて、くれたおぼろさんにおれいを、いいました。

それから、このいものはなしは、あつと、いまに、くに、じゃうに、ひろまって、いきましました。

そのいもは、水の、ゆたかな、田んぼで、育てられた、ことから、ターナムと、よばれる、ようになり、ました。いとがま寺は、南上原に、あった、といわれ、ターナムが、ひろがった、ところとして、かたり、つが、れて、います。



中城村民の歌

作詞 新垣秀雄
作曲 田場盛徳

一、 うるまの島の 中ほどこに

聳えて立てる城の跡

裾にひろがる うまし野や

月さやかなる 吉の浦

とよむその名も かぐわしく

ああ 揺るぎなき 中城

二、 教えの道も 一筋に

照らすかがり火 受けつぎて

歴史の重なり しみめて

のぞみゆたかに なごやかに

あゆむ足どり かるやかに

ああ 豊かなる 中城

三、 嵐もなにか 輪になれば

老いも若きも はつらつと

あすへののぞみ いや高く

今日のつとめ 目ざめつつ

とよむその名を 呼びかわし

ああ 栄えゆく 中城

The musical score is written in a single system with six staves. It begins with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The first staff starts with a dynamic marking of *mf*. The lyrics are written below the notes. The score includes various musical notations such as slurs, accents, and dynamic markings like *mp* and *mf*. The lyrics are: うるまのしまのなかほどこに、そびえてたてるしろのあと、すそにひろがるうましのや、つきさやかなるよしのうら、とよむその名もかぐわしくあ、あゆるぎなきなかぐすく。

中城村勢要覧 発刊のあいさつ

中城村長 浜田京介



中城村は沖縄県本島中南部の中央に位置し、世界遺産「中城城跡」をはじめ、先人達から受け継がれてきた歴史的文化財と豊かな自然環境を核に、「とよむ」中城として発展して参りました。「とよむ」とは、鳴り響くという意味で、琉球王朝時代の琉歌に由来し、文化・生活、全ての面で活気があり、世に響きわたる理想的な村の姿を表すと考えられています。

当村では平成28年5月に、村の新たなシンボルともいえる中城村護佐丸歴史資料図書館の開館を迎え、同年6月には村人口が2万人を突破しました。また、現在多くの村民が待ち望む村役場の新庁舎建設に取り組んでおり、今後ますます輝かしい未来にむけ村づくりを進めているところでございます。特に、子育て支援に力を入れており、豊かな自然と都市近郊部である特性を活かしながら、安心して子育てができる環境整備や施策など、総合的な子育て支援を推進しております。

これからも中城村が未来永劫に「とよむ」ために、村民の皆様にご指導御助言を賜りながら、中城村に住みたい・住み続けたいと思えるむらづくりに尽力して参ります。

この村勢要覧が当村の魅力を多くの方に紹介するとともに多くの皆様に活用され、お役に立つことができれば幸いと存じます。

Mayor, Nakagusuku Village
Keisuke Hamada

Greeting

Nakagusuku Village is located in the middle of the central-southern regions of the Okinawa main island. Encompassing an abundant natural environment, World Heritage Site Nakagusuku Castle Remains and other historical cultural properties which have been handed down to us today from our ancestors, “Toyomu” Nakagusuku has developed. “Toyomu” means “to ring out.” The word originates from a traditional Ryukyuan song composed during the days of the Kingdom of the Ryukyus. It is understood as expressing an ideal village that is bursting with energy in terms of its culture, livelihood and all aspects, resounding throughout the world.

In May 2016, Nakagusuku Village celebrated the opening of Gosamaru Historical Materials Library, a new symbol of the village. In June, the village population passed the 20,000 mark. In addition, we are working on the construction of a new building for the village office, which many residents are looking

forward to, and are proceeding to develop Nakagusuku Village with the goal of creating an even brighter future. A particular emphasis has been placed on support for mothers and fathers. Making use of the village’s bountiful nature and close proximity to urban areas, we are providing comprehensive assistance for raising children in the form of policies and measures, and improving the environment so that parents can bring up their children here in Nakagusuku Village, with a peace of mind.

So that Nakagusuku Village will continue to resound throughout eternity, while benefiting from the good counsel and advice of our village residents, I will devote all my efforts to making our village a place where people want to live and want to continue to live.

It is my sincere hope that this profile of Nakagusuku Village will show the charm and appeal of our village to many people, and be used and be of use to many people as well.



議会 Municipal Assembly



副議長
宮城 重夫
Deputy Speaker
Shigeo Miyagi



議長
與那覇 朝輝
Speaker
Chouki Yonaha



議会だより
Assembly Bulletin

Municipal Assembly

The Nakagusuku Village Assembly is comprised of 16 members chosen in a direct election. The Assembly deliberates and makes decisions on important matters, including village ordinances and budgets. It assembles at periodic intervals and holds extraordinary sessions whenever necessary. Moreover, a committee system, which is comprised of the Standing Committee on General Affairs, Standing Committee on Construction, and Standing Committee on Culture, Education and Social Issues, has been established to provide forums with more efficient discussions on issues from specialized perspectives.

議会

Guiding Nakagusuku Village Toward a Prosperous Future

中城村を実りある未来へ

中城村議会は直接選挙で選ばれる十六人の村議会議員で構成され、村の条例や予算などの重要な事項を審議決定しています。議会には定期的に開かれる定例会と必要に応じて開かれる臨時会があり、さらに、専門的な立場で効率的な審議をする場として委員会制度（総務常任委員会、建設常任委員会、文教社会常任委員会）を設けています。

中城村民憲章

(昭和五四年三月十日 告示第十三号)

わたしたちの中城村は、誇りある歴史と豊かな美しい自然に恵まれ、産業、教育、文化の村として発展してきました。

わたしたち村民は、郷土を愛し村民としての誇りと責任を持ち、みんなの協力によってより明るく住みよい豊かな郷土を築きあげることがを念願し、ここに村民として実践していくべき日常生活の信条としての憲章を定めます。

- 一、緑を育て清潔な住みよい環境の村をつくりましょう。
- 一、時間ときまわりを守り明るい村をつくりましょう。
- 一、健康で生産に励み豊かな村をつくりましょう。
- 一、親切で助け合いなごやかな村をつくりましょう。
- 一、文化を守り育て教養を高め心豊かな村をつくりましょう。
- 一、青少年をすこやかに育てしあわせな村をつくりましょう。
- 一、海外雄飛の伝統を守り伸びゆく村をつくりましょう。

Nakagusuku Village Charter

With pride in our history and beautiful natural surroundings, we have developed Nakagusuku-son as a village of industry, education, and culture.

We love our home province and feel a responsibility and pride as people of this village. We have therefore created a charter to formalize the tenets we need to follow in daily life as we work together to make the village a more pleasant, abundant and better place to live.

Let us build:

A village that provides a clean living environment with cultivated greenery.

A happy village wherein people keep to schedules and follow rules.

A healthy, abundant village that encourages production.

A friendly village where people are kind and help one another.

A spiritually rich village that protects, promotes, and refines its culture.

A happy village that raises healthy youth.

A growing village that preserves its traditions in which the people are actively engaged in various activities abroad.



What changes

変わりゆくもの

東部海岸部は豊かな土壌に恵まれた農業。

平坦な土地に商工業が発展。

西部高台は琉球大学を中心とする

若い学園都市。

私たちは伸びゆく中城村です。



中城村村勢要覧

発行：平成29年4月

編集：中城村役場企画課

〒901-2493 沖縄県中城村字当間176番地

TEL 098-895-2131

FAX 098-895-3048

<http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/>

制作・印刷／有限会社サン印刷

<http://www.sun-insatu.co.jp/>